

ここでは役場で行っている環境マネジメントシステムの内容や取り組みについて紹介します。

今回は、平成21年12月28日に行われた、LAS-E判定委員会について報告します。

2009年12月28日

LAS-E継続状況(四期目)の点検結果について

(通知)

LAS-E判定委員会

判定委員長 寺西 俊一

判定委員 山本 武

判定委員 杉本 裕明

判定委員 佐藤 徹

LAS-E判定委員会において、継続的な取り組みの監査報告を受け、その継続状況を点検・検討した結果、以下の所見を通知します。

1. 運用自治体

北海道士幌町

2. 運用中の類型区分

エコアクション(環境活動)部門 第1ステージ

エコマネジメント(環境経営)部門 第1ステージ

エコガバナンス(環境自治)部門 第1ステージ

3. 点検の対象となる期間

平成21年度(第四期目)

4. 継続状況に関する所見

別紙にて通知いたします。

所見

全般的な事項

独自目標および共通実施項目の監査は適切に行われており、土幌町の取り組みはLAS-Eに準拠し適正に維持されていると判定します。

平成20年度独自目標の監査結果は、庁舎暖房の二系統化やハイブリッドカーの導入等により、概ね良好な成果が上がっていました。19年度に達成できなかった各課での取り組み内容の確認について、推進本部会議等での周知が功を奏し改善できたことは評価できます。しかし、全体の数値実績に表れにくい、部署間の格差や各部署での自律的な運用について留意した運用を図ってください。

平成21年度共通実施項目の監査結果は、共通実施項目別評価結果で改善要望事項()が1項目と全体の結果は良好でした。しかし、個別の所見をみると、教育施設を中心に先施設への指摘事項が多く、手続きとして連絡はされているものの現場には十分伝わっていない点に課題があると考えられます。監査報告書でも指摘があったように、教育施設は地域波及の起点としても期待が大きいことから、内容についても第1ステージの取り組み内容の連絡に止まらず、環境基本計画の項目と連動させる等の地域への展開力を持った伝達方法・内容を検討してください。

監査について

取り組みに関する情報発信や監査員の呼びかけは行われているものの、実質的に住民監査員が過半数を下回っています。また、職員監査員については入れ替わりがあり経験者が拡大しているものの、住民監査員については固定化しています。以前から課題として指摘され、難しい状況であることは理解できますが、自治会や団体から推薦していただくなど、無理のない範囲で工夫することがないかご検討ください。より多くの住民に取り組みを広げていくためにも、次回の監査では住民監査員の拡大を図るとともに、住民が参加しやすく、多くの住民が関与しやすいしくみのあり方をご検討ください。

また、学校教育との連携の一例として、京都府八幡市で実施されている、中学生による内部監査があります。生徒や児童の参加があることにより、教職員や家庭への教育効果も期待できるため、これについてもご検討ください。

今後のステップアップについて

運用4年目に入り、これまでに改善しながら継続されてきたことは評価できます。これまでに蓄積された優れた取り組みを地域に発信し、行政内部に止まらない展開を期待します。また、継続する中で、住民監査員の拡充のように残ってしまった課題やマンネリ化のように長く続けることで生じる懸念もあります。第1ステージのレベルアップ項目(関係法令の洗い出し)の実施、さらには第2ステージへのステップアップの検討に入ることで、システム運用に新しい風を入れて活性化を促すことが望めます。

さらに、この取り組みが地域の活性化にもつながることが理想ですが、一方で、負担感ばかりにならないよう留意しつつ、より住民が参加しやすいしくみになるよう検討を望みます。

